

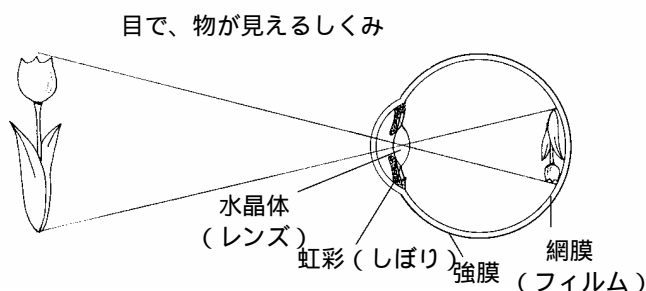


目を細めると、なぜ、遠くの物がよく見えるの

目を細めると、見たい物だけが見えるようになるため

目を細めると、遠くの物がよく見えるように感じるのは、目を細めることによって、見えるはんいがせばまり、見たい物だけが、はっきりと見えるようになるからです。

そして、そのしくみは、カメラのしぼりによく似ています。



目のしくみは、カメラのしくみによく似ている

目のしくみは、カメラのしくみによく似ている

目は、ボールのような丸い形をしており、目玉、眼球などと、よばれています。

目のしくみは、カメラのしくみによく似ています。目にもレンズがあり、水晶体とよばれています。水晶体の前には、虹彩という膜があって、カメラのしぼりのような役目をしています。水晶体を通った光は、眼球のおくにある網膜という、写真のフィルムのようにはたらきをするものところに像を結び、外のようすをはっきり映し出します。それが脳に伝わり、わたしたちは、物を見ることができるのです。

「目を細める」というのは、カメラでは「しぼり」をしぼることになります。「しぼり」の役目は、入ってくる光の量を調節することと、ピントが合う（はっきり写る）はんいを調節することです。「しぼり」を調節することによって、まわりはぼやけますが、写したい物の像が、よりはっきり写ることになります。目の場合には、虹彩がその役目をしていますが、見たい物の像が、よりはっきりと見えるように、わたしたちは、遠くの物を見るときなどには、目を細めるのです。（監修・青木 国夫）

